

モード Mode Mode は語る

中野 香織

伝統をつなぐ人々の絆

石川県輪島市の漆器製造販売会社「岡垣漆器店（千舟堂）」の岡垣祐吾社長の案内で、漆器職人たちの取材をさせていただいた。300あった漆工房の半数以上が破壊され、多くの職人が仕事や家を失うという状況の中、岡垣さんは職人を守り、輪島塗継承のための行動を続けていた。

春に東京・広尾で展示会を開催したのもその一環だった。展示会に一人の男性が訪れる。輪島の状況聞き、不便に思っていることは何か、と岡垣さんに尋ねた。2つある、と岡垣さんは話した。1つめは、大き



職人を守り、輪島塗を継承する努力に支援の輪が生まれている

な展示場所が必要だということ。2つめは、輪島の子どものために著名な人に来てほしいということ。

石川・能登の輪島塗

男性が「分かりました。私の店を展示会場に使ってください」と申し出たことで、その人がブルネロクチネリジャパン（東京・千代田）の宮川ダビデ社長だと岡垣さんは知った。その後、表参道旗艦店のアートスペースで、ほぼ2カ月、輪島塗の漆器からアート作品にいたるまでの展示販売会がおこなわれた。

2つめに関しては、クチネリジャパンのスタッフ、総勢43人が、プロのテノール歌手を伴って輪島を訪れた。歌手が屋外で朗々と歌いあげるオペラを、シャイな輪島の人々は家

の中で耳を澄ませて聞き入った。オペラを生まれて初めて聞く人も、涙を浮かべていた。社員たちは、ひと区画のがれきを片付けていった。

この話を岡垣さんから聞いた1週間後、輪島は豪雨に襲われた。地震で家を失い、プレハブで再出発したばかりの職人さんの工房も、床上浸水の被害に見舞われた。

岡垣さんは再度、立ち上がる。米ニューヨーク市のアートギャラリー、大西ギャラリーの支援を受け、同市で輪島塗の展覧会を25日まで開催している。職人の仕事を守る責務を敢行する勇気、できることを行うという支援の輪との謙虚な交流のなかに、人間の最も気高い姿を見る思いがする。